一宮地区公共施設再編整備基本構想【概要版】

1 はじめに

背景及び目的

本市では、公共施設の適正配置と長寿命化を推進しており、豊川市公共施設適正配置計画（令和2年6月改訂）では、リーディング事業の1つとして「一宮エリアの施設再編プロジェクト」を位置付け、一宮地区の公共施設を再編する「（仮称）一宮コミュニティネットワーク構想」の実現に向けて取り組むこととしています。基本構想では、一宮地区の拠点としてふさわしい施設整備のあり方を示すことを目的とします。

2 一宮地区の公共施設の現状と課題

（仮称）一宮コミュニティネットワーク構想の位置付けと概要

一宮地区の公共施設は、以下の様な課題を抱えています。これらの課題解決のため、早期の公共施設再編整備が求められています。

＜エリアの現状＞
〇施設の老朽化、劣化の進行
〇施設利用率が低く、施設の立地に課題がある

＜エリアの課題＞
〇維持管理費の増加、施設の在り方検討の必要性
〇適正配置の必要性

一宮地区の公共施設の配置及び概要

一宮地区の公共施設のうち、立地、敷地の確保、セキュリティの確保などの点で制約が大きい小中学校及び保育園等を除いた6施設を再編の対象とします。

施設名称	建築年	延床面積
①一宮庁舎	1973	4,404 ㎡
②一宮生涯学習センター	1987	1,886 ㎡
③いちのみや児童館	1991	217 ㎡
④一宮体育センター	1983	914 ㎡
⑤農業者トレーニングセンター	1985	1,990 ㎡
⑥健康福祉センター（いかまい館）	2000	3,703 ㎡

一宮地区の公共施設再編に係る住民アンケート

令和2年10月に一宮地区在住の18歳以上の男女1,000人を対象に、一宮地区における公共施設再編の考え方などについてアンケート調査を実施しました。アンケート回収率は50.8%（508票）でした。

◆結果の抜粋

公共施設集約の考え方	「できるだけ機能を集約し、1つの中心的な拠点を整備すべき」（25.9%）が最も多く選択されました
集約対象施設の優先度	①「利用者数や利用率の低い施設」（28.7%） ②「機能が重複している施設」（19.3%） ③「維持や改修に多額の費用がかかる施設」（18.9%）
複合施設がどんな場所になれば良いか	①「子どもから高齢者まで様々な世代が集まって交流できる場」（61.2%） ②「子育て世代の拠り所となる場」（27.2%） ③「高齢者がいきいき活動できる場」（24.6%）

複合施設にどんな機能やサービスがあると良いかについても聞きました

◎喫茶店・カフェ・飲食店、◎屋内施設（体育館、ジム・ヨガ教室　など）
◎屋外施設（遊歩道、芝生広場　など）、◎交通機関の充実・アクセスしやすさ
◎買い物（スーパー・ショッピングモール　など）
◎子どもが遊んで学べる施設（安心して遊べる場所　など）

3　対象敷地

敷地概要

新施設の立地は、利便性、歴史性、都市計画の方向性等を踏まえ、現在の一宮庁舎等の敷地への整備が望ましいと考えられます。

一宮庁舎等敷地の概要と現在の利用状況については、以下のとおりです。

敷地概要	
敷地面積	12,263.55 ㎡（消防署一宮出張所の敷地（1,084.29 ㎡）は除く）
用途地域	第2種住居地域（建蔽率 60%、容積率 200%）
備考	・市有地 ・駐車台数131台（公用車等 64台分含む）

現在の利用状況の図

4 新施設の考え方

再編全体の方向性

市全体の公共施設マネジメントの方針に沿った考え方

○保有面積とトータルコストの縮減に寄与する（豊川市公共施設適正配置計画）

○図書館・生涯学習センターは、都市機能誘導区域への誘導に配慮する（豊川市立地適正化計画）

○施設の利用率、エリア内で重複する機能、今後の維持や改修にかかる費用などを考慮し、複合化等する施設を検討する（豊川市公共施設適正配置計画）

○SDGs の「11.住み続けられるまちづくりを」に資する取組とする

一宮地区の“地域の活動や多世代交流が促進”されるような拠点を創造するための考え方

多世代
で楽しめる
子どもから高齢者まで幅広い世代が集まり、様々な活動を通じた交流ができる施設

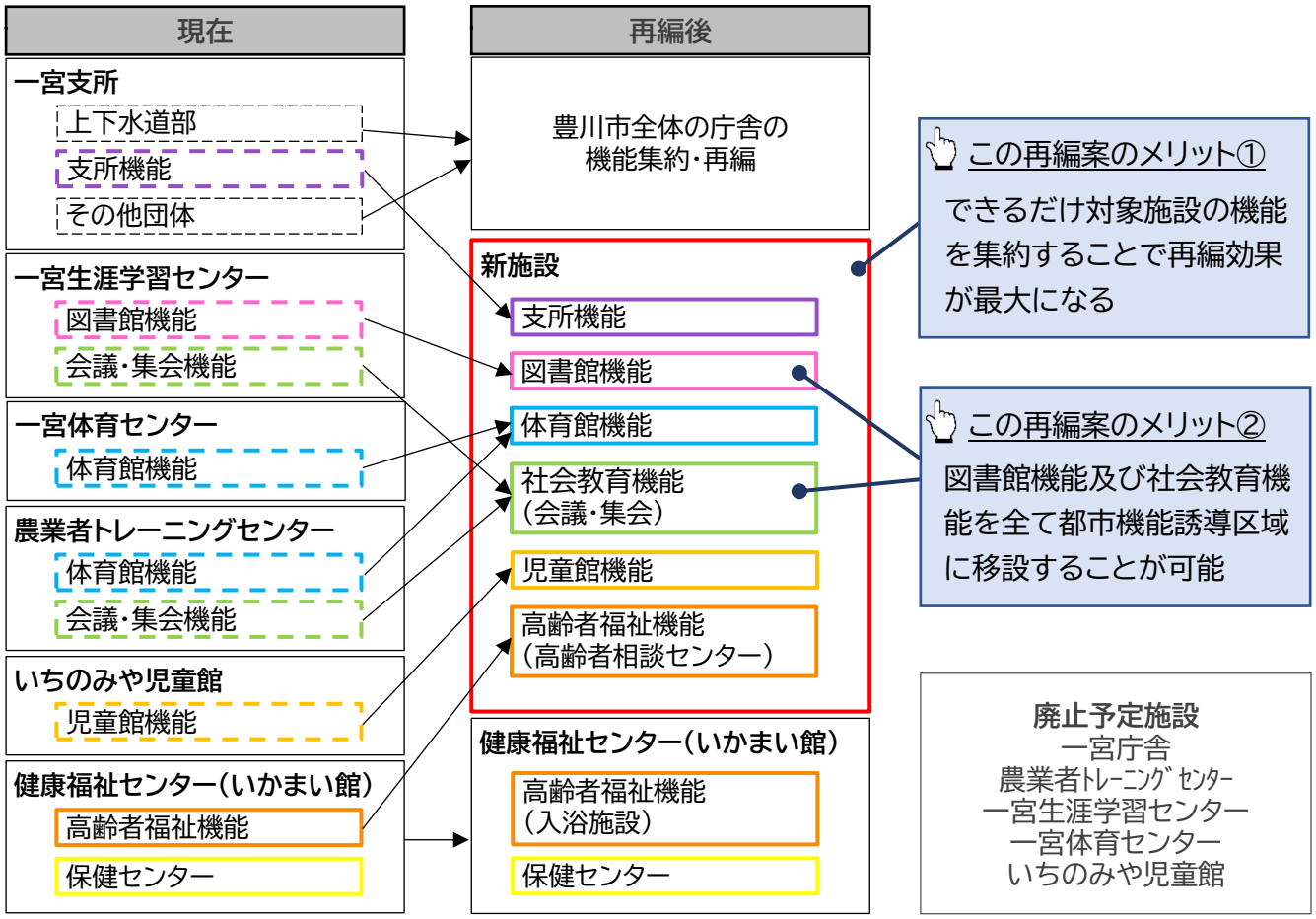
地域の活動・多世代交流を促進する拠点

快適
に過ごせる
施設内外に快適に滞在できる機能・空間を設けるとともに災害時の継続利用に配慮

地域
に親しまれる
地域の特色が感じられ、環境にやさしいデザインに

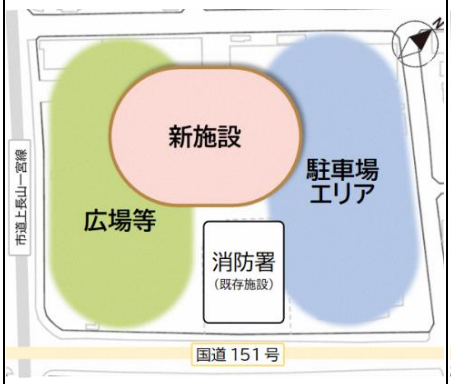
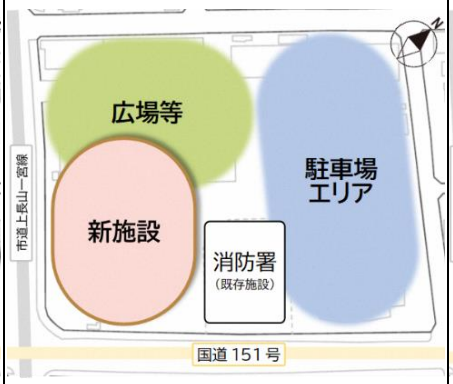
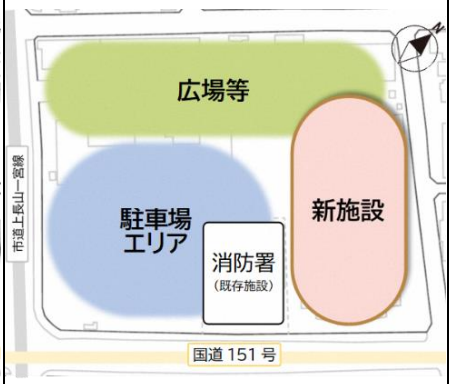
再編パターン

複数案を比較検討した結果、下図の再編パターンを基に進めることとしました。



新施設のゾーニング

敷地内での新施設の配置について、複数パターンを比較検討しました。ゾーニングについては、これまでの議論も踏まえつつ、基本計画以降も検討を続けます。

パターンA	パターンB	パターンC
新施設の利便性、シンボル性を重視した配置 （敷地中央に新施設を配置）	新施設の利便性及びシンボル性と既存機能の継続使用に配慮した配置 （敷地南西側に新施設を配置）	既存機能の継続使用に配慮した配置 （敷地東側に新施設を配置）
		
＜メリット＞ ○新施設及び広場等が国道等に向いており、にぎわいや雰囲気が通行者にも伝わりやすい ○広場等と駐車場への歩行距離が比較的短い ○工事中も農トレが利用可能	＜メリット＞ ○事業費や庁舎機能の移転時期等より、適した方法が選べる ○広場等と駐車場の一体利用が図りやすい ○旧一宮庁舎を継続使用したまま新施設の建設が検討可能	＜メリット＞ ○事業費や庁舎機能の移転時期等より、適した方法が選べる ○広場等と駐車場の一体利用が図りやすい ○旧一宮庁舎を継続使用したまま新施設の建設が可能

5　今後のスケジュール

今後、令和7年度以降の工事開始を目指して、基本計画の策定及び基本設計・実施設計を行っていきます。また、既存機能の移設等についても検討を進めていきます。

年度	新施設整備	その他
R2 R3	**・基本構想の策定（今回の検討）**	
R4	**・基本計画の策定** ○新施設の諸室・規模等、建設工法・事業手法　等	・既存機能の移設等について検討
R5 R6	**・基本設計、実施設計**	
R7 以降	**・工事** 事業手法などによって変動有り **供用開始**	**・工事進捗に合わせて機能移転等を実施**

一宮地区公共施設再編整備基本構想【概要版】
発行：令和３年８月　豊川市総務部財産管理課
電話：0533-89-2108　FAX：0533-89-2163
https://www.city.toyokawa.lg.jp/shisei/gyoseiunei/manejiment/index.html